

北海道がんセンター通信


2023 第63号 JULY



積丹ブルー

CONTENTS

- 腫瘍循環器・生活習慣病センター設立に当たって 腫瘍循環器・生活習慣病センター 井上 仁喜 …… 2
- 薬剤部長就任のご挨拶 ～薬剤部の歴史紹介～ 薬剤部長 橋下 浩紀 …… 3
- 新任医師紹介 …… 4～5
- 各科トピックス
「放射線診断科」 放射線治療部長 南部 敏和 …… 6
- 新しい強力なHPVワクチン接種が始まりました。 院長 加藤 秀則 …… 7
- 「北海道がんサポートハンドブック 2023」が発行されました！ …… 7
- がん検診のご案内 …… 8

北海道がんセンターの理念
私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

(基本方針)

- 1 都道府県がん診療連携拠点病院の使命を果たします。
- 2 常に医療の質と技術の向上を目指します。
- 3 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
- 4 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 5 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。

腫瘍循環器・生活習慣病センター設立に当たって



腫瘍循環器・
生活習慣病センター
井上 仁喜

腫瘍循環器センターはこれまで、院内センターとして、がん医療のサポートを最も重要な日常業務と考え診療に当たってきました。この度、腫瘍循環器センターは、**腫瘍循環器・生活習慣病センター**と名称を変更して新たなスタートを切ることになりました。

センターの設立の目的は大きく分けて3つあります。

第一は、がんに合併した、あるいはがんの治療により新たに引き起こされた心血管疾患を診断し治療するという腫瘍循環器センターの最も大切な役割です。これは、これまでと何ら変わるものではありません。

この度、新たに**生活習慣病**が腫瘍循環器センターの名称に加わりました。生活習慣病には日本人の三大死因であるがん、心疾患、脳血管疾患および、その危険因子となる動脈硬化・糖尿病・高血圧・脂質異常症、肥満などが含まれます。生活習慣病は、その名の通り食生活、喫煙、運動習慣などの生活習慣が深く関わり、加齢とともに増加します。

がん医療の進歩に伴い、がん患者さんの寿命が延び、がんと心血管疾患を合併する患者さんは、今後増加することが予想されます。また、近年、がん治療後は心血管疾患のリスクが高くなることが明らかとなってきました。がん治療終了後の患者さんの人生は、がんサバイバーシップと称され、がん治療期間よりも長くなることも稀ではなくなり、がん治療中と変わらない管理の必要性が謳われています。これからの時代、がんと心血管疾患を各々独立した疾患として診るのではなく、疾患の枠にとらわれない、生活習慣病という広い視点が必要と考えます。そこに腫瘍循環器・生活習慣病センターの名称の由来があります。

センター設立の第二の目的は、**広報**です。センターが、がんの患者さんのお役に立つためには、まずは患者さんや連携する医療機関、更には一般社会にその存在を広く知っていただき、その重要性を理解していただくことが必要です。そのためには、センターの広報活動の場を院内中心から、病院の外へ向かって、広げてゆくことが求められます。例えば、患者さん向けの講演会、連携する医療機関との勉強会、一般の市民の方を対象とした医療相談や健康診断などです。これらにより腫瘍循環器学と生活習慣病が身近な存在になることを目指します。

最後、三つ目の目的は、センターを有効かつ効率的に運営するための**戦略**を考えることです。がんセンターにおいて循環器内科は異質の存在です。腫瘍循環器と生活習慣病を、ひとつのセンターとして称する組織は、全国に今のところ見当たりません。限られた医療資源の中で、腫瘍循環器・生活習慣病センターが、がんセンターの組織の歯車に組み込まれ、有効に機能するためには、先例にとらわれない発想と知恵、工夫が必要です。私たちは、がん診療に携わる医師および病院事務、コメディカルスタッフなどと協力しながらそのための方法を考え、実践に移します。

がん医療は、がんと診断されたときから始まり、治療中、そして治療後も続きます。腫瘍循環器・生活習慣病センターの設立は、北海道がんセンターが、生涯に渡り患者さんに寄り添ってゆくというひとつの意思表示でもあります。私たちは、個々のがん患者さんのことをよく知る循環器内科として、ご紹介をいただいた医療機関とも連携しながら、がん患者さんの一生の拠り所となるよう努力する所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

薬剤部長就任のご挨拶

～ 薬剤部の歴史紹介 ～



薬剤部長
橋下 浩紀

本年4月に薬剤部長に就任いたしました橋下 浩紀と申します。

当院は4回目の勤務となります。大学卒業後 ①国立札幌病院（現北海道がんセンター）に就職し、②厚生省③医薬品機構 ④札幌南病院 ⑤北海道がんセンター ⑥帯広病院 ⑦旭川医療センター ⑧北海道がんセンター ⑨北海道医療センターと渡り歩き、⑩北海道がんセンターへ戻ってきました。一番長かったのが①の9年、一番短かったのが⑤の1年でした。そして⑧の時は新病院の準備と引っ越しを行っての異動でしたので、今回戻れて良かったと思っています。

①から⑩の間に大きく変わったことがいくつかあります。昭和から平成、令和へと時代が変わりました。厚生省へ出向していた時に省庁再編で厚生労働省へ変わりました。病院に戻ると国立病院から独立行政法人国立病院機構へと変わりました。薬学部が4年制から6年制に変わりました。そして、仕事に一番影響があった変化は、薬剤師の業務です。

当院薬剤部の業務の変遷を簡単に記します。

昭和

外来患者さんの調剤が中心で、いかに早く正確に薬を作って患者さんや病棟へ渡すかが薬剤師の腕の見せ所でした。患者さんと接する時間はほとんどなく質問されたら答える程度のことしかできませんでした。大学で培った知識よりも体力が重要な時代でした。

平成

院外処方箋への移行が進み、外来患者さんの調剤から入院患者さんの服薬指導へと業務の比重が変わっていきました。コツコツと臨床業務を拡大して病棟に薬剤師が常駐するようになりました。いろいろな分野の専門薬剤師や認定薬剤師が増え、知識を活用できるようになりました。

令和

6年制卒の薬剤師が増えてきました。入院患者さんに加え、化学療法を実施している外来患者さんをサポートするために、一部の診療科で薬剤師外来を開始しました。薬剤師外来とは、医師の診療補助として診察前に薬剤師が患者さんの薬の服用状況や副作用発現状況を確認することです。また、保険薬局と連携し、副作用の早期発見や適切な対応を取ることで、患者さんが安心して化学療法を受けながら生活できるよう努めています。

このように薬剤師の業務は変化してきました。今後も変化（進化）を継続し、安心安全な薬物療法の提供に力を注いでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



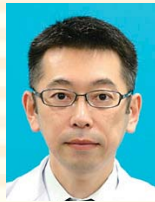
がん専門薬剤師による
薬剤師外来

新任医師 紹介

- ①氏名 ②ふりがな ③職名
④専門分野 ⑤所属学会
⑥自己紹介

呼吸器内科

① 朝比奈 肇 ②あさひな はじめ



③呼吸器内科 医長 ④肺がん、悪性胸膜中皮腫、胸腺腫、胸腺がん、その他の呼吸器悪性腫瘍

⑤日本肺癌学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本内科学会、米国臨床腫瘍学会(ASCO)、欧州臨床腫瘍学会(ESMO)、世界肺癌学会(IASLC) ⑥2023年4月より赴任して参りました。

1999年に大学を卒業し北海道大学第一内科(現呼吸器内科)に入局、2003年より北海道大学第一内科の肺癌グループで主に肺がんの臨床研究に従事して参りました。その間、2008年から2年間は国立がんセンター中央病院肺内科に国内留学(臨床)2013年から2年間はボストンのダナ・ファーマー癌研究所で基礎研究も行いました。これまで勉強してきたことを実地臨床に生かしていきたいと思ひます。お気軽に患者さんをご紹介いただければと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。

消化器外科

① 岡田 尚樹 ②おかだ なおき



③消化器外科 医師 ④消化器外科・一般外科
⑤日本外科学会、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本癌治療学会 ⑥4月より北海道がんセンター消化器外科へ赴任いたしました岡田尚樹と申します。これまで道内の病院で消化器外科・一般外科診療に従事してまいりました。患者様へより良い治療を提供できますよう心がけてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

乳腺外科

① 敷島 果林 ②しきしま かりん



③乳腺外科 医師 ④乳腺外科
⑤日本外科学会、日本乳癌学会、臨床外科学会
⑥4月より北海道大学病院乳腺外科より赴任して参りました。敷島果林と申します。乳がんの患者さんは年々増えてきておりますが、患者さん一人ひとりに寄り添い、丁寧な診療を行えるように日々精進していきます。至らない点もあるかと存じますが、どうぞ宜しくお願ひ致します。

骨軟部腫瘍科

① 清水 寛和 ②しみず ひろかず



③医師
④骨軟部腫瘍科
⑤日本整形外科学会、日本小児整形外科学会
⑥北大整形より参りました。腫瘍性疾患を診ることはこれまであまり経験がなく、ご迷惑をかねように努めて参ります。よろしくお願ひします。

血液内科

① 高橋 承吾 ②たかはし しょうご



③医師 ④血液内科 ⑤日本内科学会、日本血液内科学会、日本造血・免疫細胞療法学会

⑥以前もこちらで働かせていただきましたが、また戻ってくる事ができて嬉しく思っております。Specialistとしての視点だけでなく、Generalistとしても幅広く知識を身につけていきたいと思ひます。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ致します。

呼吸器外科

① 千葉 慶宜 ②ちば よしき



③医師 ④呼吸器外科 ⑤日本外科学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会、日本臨床外科学会、日本内視鏡外科学会、日本胸腺研究会 ⑥栗山町出身で、平成29年に札幌医科大学医学部を卒業し、医師7年目となりました。呼吸器外科医師として、患者様に安心安全な医療を提供すべく、精進して参ります。よろしくお願ひ致します。

呼吸器内科

① 畠山 西季 ②はたけやま ゆうき



③医師 ④呼吸器内科
⑤日本内科学会、日本呼吸器学会、日本肺癌学会、日本臨床腫瘍学会、日本呼吸器内視鏡学会
⑥北海道大学医学部を2018年3月に卒業し、市立函館病院で初期研修の後、以降砂川市立病院、国立病院機構 函館病院、KKR札幌医療センター、北海道大学病院で勤務後、2023年4月より当院

呼吸器内科で勤務させていただいております。日々ご指導を賜りながら、患者様へ適切な診療をお届けできるように精進しております。何卒よろしくお願ひいたします。

泌尿器科

① 山形 優友 ②やまがた ゆうすけ



③医師 ④泌尿器科 ⑤日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 ⑥4月より泌尿器科医師として着任しました。山形優友と申します。生まれは札幌市、出身大学は北海道大学、趣味は旅行です。赴任してまだ数か月ですが、当院では泌尿器腫瘍をより深く学ぶことができ非常に充実した毎日です。また色々あってこの歳になって初めて野球を始めました。運動不足気味だった体にはハードな時もありますが、先輩方より熱心な指導を受けて練習に励んでおります。これからもよろしくお願ひ致します。

婦人科

① 嶋田 知紗 ②しまだ ちさ



③婦人科 医師
④婦人科腫瘍
⑤日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本遺伝性腫瘍学会
⑥皆様に、気軽に、リラックスして婦人科を受診、また、ご相談して頂けるよう努めます。よろしくお願いいたします。

放射線診断科

① 原嶋 十考 ②はらしま かずたか



③医員 ④放射線画像診断 ⑤日本放射線学会 ⑥卒後8年目の原嶋十考です。市立札幌病院で初期研修を行い、苫小牧市立病院と北海道大学病院、斗南病院を経て、異動して来ました。放射線診断科の一員として、患者さまや他科の先生方に貢献できるように、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

頭頸部外科

① 田川 愛 ②たがわ あい



③医師 ④耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般
⑤日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、日本頭頸部外科学会、日本頭頸部癌学会
⑥地方勤務が多く、札幌の病院は大学と斗南病院以来になります。少しでも皆様のお役に立てよう努めますので、何卒よろしくお願いいたします。

病理診断科

① 宮石 陸 ②みやいし りく



③病理診断科 医師 ④病理学一般 ⑤日本病理学会 ⑥今春より着任しました宮石と申します。趣味は文房具蒐集で、休日は趣味と実益を兼ねた買い物によく行きます。がんセンターでの業務は日々新鮮でやりがいも多く、充実した毎日を過ごしています。手術や検査で採取された細胞・組織を顕微鏡で観察するというミクロな視点から、日々の医療に貢献してまいります。よろしくお願いいたします。

頭頸部外科

① 濱田 充 ②はまだ みつる



③医師 ④耳鼻咽喉科、頭頸部外科全般
⑤日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会
⑥4月より北海道がんセンターで勤務させていただくことになりました濱田充と申します。至らぬ点も多々あるかと思いますが、北海道のがん診療に貢献できるように努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

消化器内科

① 岩窪 篤 ②いわくぼ あつし



③消化器内科 ④消化器全般 ⑤日本内科学会、日本消化器病学会 ⑥この度、北海道がんセンターの消化器内科に着任させていただきました。岩窪篤と申します。昨年までは室蘭の日鋼記念病院にて初期研修をしており、消化器内科医としては今年度で1年目となります。趣味はドライブや温泉に行くことで、是非おすすめの温泉がありましたら教えていただけたらと思います。まだまだ未熟な面もあり、諸先生にはご迷惑をおかけする面もあると思いますが、精進して参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

麻酔科

① 山中 瑛里加 ②やまなか えりか



③医師 ④麻酔科 ⑤日本麻酔科学会
⑥今年4月より赴任いたしました、旭川医科大学麻酔・蘇生学講座に所属しています山中瑛里加と申します。現在は麻酔科専攻医として手術麻酔に携わっております。当院はがん診療の中核を担うという特性上、他院では経験することの無かったような症例もあり、日々多くの事を学ばせていただいております。患者さんにとって大きな不安が伴う手術を、より安心して受けていただくための麻酔が提供できるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

呼吸器外科

① 佐藤 和輝 ②さとう かずき



③呼吸器外科レジデント ④呼吸器外科
⑤日本外科学会、呼吸器外科学会、胸部外科学会
⑥初めまして、私は3年目呼吸器外科医の佐藤和輝と申します。初期研修の2年間は函館五稜郭病院で研修し、今年から地元札幌に戻って北海道がんセンターで働いています。日々手術手技の向上に努め、患者さんの健康を守るために勉強させてもらっています。この病院に産科がまだあったころ、私はこの病院で産まれた経験があります。その縁を感じながら、地元の方々に貢献できることを大変嬉しく思います。よろしくお願いいたします。

放射線診断科

① 高橋 文也 ②たかはし ぶんや



③放射線診断科 医師 ④画像診断、IVR
⑤日本医学放射線学会、日本IVR学会、日本脳卒中学会
⑥私は放射線診断医兼IVR医の高橋です。放射線診断の専門知識とIVR (Interventional Radiology) のスキルを持ち合わせており、放射線画像を用いて診断を行うだけでなく、IVRを通じて非侵襲的な手技で治療を行うことができます。患者さんやメディカルスタッフとのコミュニケーションを大切に、より良い医療を提供するために情熱を持って取り組んでいます。

口腔腫瘍外科

① 山隈 優 ②やまぐま ゆう



③口腔腫瘍外科レジデント ④口腔腫瘍外科
⑤日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本口腔腫瘍学会、日本頭頸部癌学会、日本解剖学会
⑥2023年4月より北海道がんセンター口腔腫瘍外科に勤務させて頂いております山隈と申します。東北大学を卒業後、口腔外科を専攻として横浜市立大学、宮崎大学で勤務しました。大学では臨床だけでなく、がん関連線維芽細胞に着目した研究を行ってまいりました。当院は、日本有数の口腔がん症例数を誇るため臨床はもちろんのこと、研究面でも貢献できるように努力していく所存です。不慣れな点も多く、ご迷惑をおかけすることかと思いますが、何卒宜しくお願い致します。

放

射線診断科

「放射線診断科紹介」

放射線治療部長
南部 敏和

放射線診断科は、通常の病院受診においては直接的には馴染みがない部門かもしれませんが、種々の撮影装置を用いて得られた人体の画像から、病変の診断、評価をして、画像診断レポートを作成したり、体内の特定の部位を標的とした特殊

な治療手技を行う専門領域の診療を担当しています。

画像に写ってくる全身の臓器、病変が扱う対象になってくるため、ほぼ全ての診療科に対して画像診断の専門医として情報を提供する役割があり、麻酔科や病理検査科などとともに“中央部門”に位置づけられる立場にあります。

画像診断医は欧米に比べて日本は少なく、さらに北海道地区では本州に比べて不足がかなり深刻な現状ですが、北海道がんセンターでは精力的にスタッフを集めており、現在7～8名の医師が診療にあたっています。



【画像の読影；CT、MRI】

日本はCTやMRIの普及率が世界で一番高い国とされています。身体の不調があり、受診した診療科で病変を探したり、治療効果の評価をしたりする上で、頻繁に利用される重要な検査です。最新の装置では対象とする病変、病態ごとに応じた種々の撮像法にて、短時間に多数の画像データが作成できます

が、画像診断医はその検査画像を観察、判定し、記録を作成しています。過去の多量の検査画像や紹介元医療機関からの資料も合わせて観察することも多く、がん診療の画像に関する読影診断業務では、かなり労力を要する場合も多くなっています。

特定の部位、臓器だけでなく、検査範囲全体の画像も観察しており、予想外の別病変が見つかることもあります。

診療科の担当医と連携し、画像検査情報に複数の医師の眼を通すことで、情報交換ができ、チーム医療を支える働きをしています。

【RI検査】

体に害のない程度の微量な放射性薬品を体内に注入し、ガンマカメラやPET装置を用いた撮像にて臓器や病変の代謝、活動状態を評価するものですが、認可をうけた施設を有する医療機関で行われている特殊検査であり、CT・MRIよりも行う回数は少ないですが、がんの診断、治療の過程に必要な重要な情報を得るために利用されています。

【IVR（画像下治療）】

IVRは画像装置を駆使して、低侵襲（体への負担が少ない）状態で行う手技・診療ですが、専門的なトレーニングを積んだ医師が担当しています。血管カテーテル治療では、腫瘍の血管内治療（抗がん剤の注入など）や止血術などを行います。また、体内の深い部位の組織を正確に採取する組織生検や、薬剤の注入に必要な血管内カテーテルの挿入、留置を行う手技も数多く担当しています。



新しい強力なHPVワクチン接種が始まりました。



院長 加藤 秀則

1983-1984年にHPV（ヒトパピローマウイルス）のうち16と18型というタイプが子宮頸がんの原因となることが、ドイツのツールハウゼン博士らによって明らかにされました。世界中で多くの女性の命を奪ってきた頸がんの原因が同定され、診断・予防に新しい道が開かれ、この偉業で博士はノーベル賞を受賞しました。

10年以上の月日がかかりましたが、HPVワクチンが実用化され、日本での公費負担接種が2011年から始まりました。ところが、マスコミによってセンセーショナルに神経障害性副作用が報道され、それまで多くの親子に受け入れられ順調に見えた、頸がん予防のためのワクチン接種が世間から拒否されてしまったのでした。ところがこの複合性局所疼痛症候群（CRPS）はその後名古屋地方での疫学調査はじめ多くの調査で自然発症のCRPSと頻度差はないことが明らかにされました。

この間欧米ではワクチン接種が進み、若い女性での子宮がんや前がん病変がほとんど発生しなくなっています。この意味で日本は後進国になってしまったのです。この春より、子宮頸がんの原因となる7種類のHPV（HPV16/18/31/33/45/52/58型）に対して有効なパワーアップしたワクチンが公費で接種できるようになりました。以前のワクチンより有効性が高く、90%程度の、ほとんどの頸がんを予防することができます。もちろんCRPSが増える報告も世界中からありません。

小学6年～高校1年生に相当する女性で半年おいた2回の接種が無料です。当院でも婦人科外来で始めました。連携室で予約ください。

「北海道がんサポート ハンドブック 2023」が 発行されました!



北海道がんセンターより皆様にご案内です。
毎年発行している「北海道がんサポートハンドブック」の2023年度版が完成しました。

がんと診断された患者さん、ご家族が活用できる相談窓口の紹介の他、様々な情報を掲載しております。がん診療連携拠点病院、北海道がん診療連携指定病院に配布しているほか、北海道のホームページ（https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/gan_support1.html）からも閲覧、ダウンロードできますのでご確認ください。

北海道がんセンター がん検診のご案内

完全予約制

● 4大がん検診

- 腹部エコーにより肝臓を中心に観察
- 胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
- 便潜血反応による大腸がんスクリーニング
- 低線量CTによる肺がん検診
毎週水曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40
毎週木曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40

● 腹部3大がん検診

- 腹部エコーにより肝臓を中心に観察
- 胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
- 便潜血反応による大腸がんスクリーニング
毎週水曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40
毎週木曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40

● 低線量肺がんCT検診

一般的な肺CTよりも少ない被ばくでCTが受けられます。
毎週 水曜日・木曜日 ①12:00 ②15:00

● 乳がん検診

マンモグラフィによる検診
（エコーなどのオプションもあります）
毎週 金曜日 14:30

● 婦人科がん検診

子宮頸がん・子宮体がん検診
（エコーなどのオプションもあります）
毎週月曜日 10:30～
毎週火曜日～金曜日 ①13:30 ②14:00 ③14:30

● 前立腺がんのPSA検診

採血後2時間以内に泌尿器科医師より結果とその後の指示を受けられます。
完全予約制/木曜日 11:00

● 大腸がん検診

当院では予約日に消化器内科医師より直接検診結果を聞くことができます。
完全予約制/月～金曜日 14:00～

● 胃がん内視鏡検診

専門的な知識と技術を備えたスタッフが対応させていただきます。
完全予約制/毎週金曜日 ①9:00 ②9:20 ③9:50

● PET検診

全身を一度に調べることができます。
平日/月曜日～金曜日 10:30

予約受付センターの受付時間：毎週 月曜日～金曜日
電話による予約 13:00～16:00 / 窓口による予約 9:00～16:00

患者さんの権利

1. 人格が尊重され、良質な医療を平等に受ける権利があります。
2. 十分な説明を受け、自分が受けている医療について知る権利があります。
3. 自らの意思で、医療に同意し、選択し、決定する権利があります。
4. 個人のプライバシーが守られる権利があります。

患者さんの責務

1. 良質な医療を実現するため、医師等に患者さん自身に関する情報を正確に提供してください。
2. 納得出来る医療を受けるため、良く理解出来なかった説明については、理解出来るまで質問してください。
3. 他の患者さんの医療及び職員の業務に支障を与えないようにご配慮下さい。

患者さんへのお願い

院内の取り決めを守り、病院職員と協同して医療に参加、協力することをお願いします。

独立行政法人 国立病院機構

北海道がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院



〒003-0804
北海道札幌市白石区菊水4条2丁目3-54
代表 TEL (011) 811-9111
FAX (011) 832-0652
ホームページ
<https://hokkaido-cc.hosp.go.jp/>

QRコード→



● 相談窓口

がん相談支援センター
直通電話 (011) 811-9118
地域医療連携室
直通電話 (011) 811-9117
直通FAX (011) 811-9110
メールアドレス 100-mb05gas1@mail.hosp.go.jp

交通のご案内



- 【地下鉄】 地下鉄東西線「菊水駅」下車、3番出口より徒歩3分
- 【バス】 JR北海道バス「菊水駅前」バス停から徒歩約3分
- 【自動車】 札幌自動車道 札幌インターチェンジから約20分
※病院正面の駐車場は有料となっています（外来患者さんは1回200円、30分以内であれば無料）。できるだけ公共の交通機関をご利用ください